青少年健全育成気運高まる

木津と横越下地区で支部結成！

「人の子も、わが子と思い愛のひと声を」地域ぐるみで青少年の健全育成をはかっていこうと、去る一月、村青少年育成村民会議が結成され、その後各地域で支部組織の結成が期待されていたところですが、三月二十八日に木津支部の結成、つづいて横越下支部が四月五日に結成されました。

今後は各地区でも支部結成の動きがあります。

この二ツの支部のユニークな活動計画を紹介しましょう。

＜木津支部＞

幼い子どもから高令者まで集うサイの神の実現、日曜日の早朝マラソン、親子登山や臨海教室などを行う予定。

これらの活動に要する経費は、空びんや古紙の回収など地域をあげてリサイクル運動を実施し、それで得た経費を充てるとしています。

＜横越下支部＞

地区にある曹洞宗の名刹、宗賢寺で禅の集い、秋季祭礼で部落民踊流しや、子どもみこし、神楽舞を奉納したり、地域に組織されている子ども会、スポーツクラブの活動を通して、地区住民の青少年の健全育成の気運を高めていくということです。

※

木津 加茂神社の大けやき 大手術!!!

県内でもけやきの大木と知られ、県文化財天然記念物の指定をうけている木津加茂神社の大けやきは近年の道路舗装や用水路の改修などの環境変化で次第に樹勢が弱くなり枯枝がめだつようになりました。

そこでこのままにしておくと枯れるおそれがあるため、去る三月二十三～四日の二日間に渡り、枯枝の切り落し作業が県森林組合の手によっておこなわれました。枯枝といっても普通の木の幹ほどもある木ですから、大型のクレーンで釣降ろしその切り口は腐敗しないように銅板を巻くという念入りな大手術でした。

この二日間に要した経費は約三十五万円、この手術でさらに長生きしてもらいたいですね！

国際障害者年に当って

昭和56年（1981年）
国際障害者年

〈テーマ〉完全参加と平等

地域社会の心をつなぐ——ボランテア活動

今年は「国際障害者年」です。いま国内はもとより世界中で、障害を持つ人の社会への完全参加と平等の実現を目ざして、いろいろな運動や催しが行われています。障害を持つ人の問題は単に障害を持つ人だけでなく、わたしたち一人ひとりが自分自身の問題として受けとめ、巾広い社会的な連帯意識をもって解決していくことが大切です。障害を持つ人に対する理解と関心を深め、みんなが参加し、みんなが平等に暮らせる社会づくりを進めるために、わたしたちは社会の一員として、なにかしら必ずできるはずです。「相手の身になって、自分のして欲しいと思うことをその通り人にする」ボランテア活動についてみんなで考えてみましょう。

ボランテイア活動

ボランテイアという言葉には「自ら進んである任務につくことを申し出る人・有志」という意味があります。つまり自ら進んでだれのために報酬を期待しないで何かをする——これがボランテイア活動です。それは、恵む——恵まれる。与える——与えられるといった関係ではなく、同じ社会の一員であるという強い人間同士のきずなから出発しているのです。総理府は昨年一月「社会福祉に関する世論調査」を行いましたが、「実際に活動している」と答えた人は七％に過ぎません。これに対し「ボランテイア活動をしたことがない人」のうち機会があれば活動したいと答えた人は三〇％にのぼっています。わたしたちの社会でボランテイアが活発になったのは戦後のことであり、それも一九七〇年以降です。住民参加——福祉的な姿勢が、ボランテイア活動へと結びついていったのです。社会の一員として（連帯性）自分の意思で（主体性）——という二つの柱が、ボランテイア活動の精神です。

校雲抄

四月は桜を眺めて過し、二十九日の天皇誕生日から黄金週間（ゴールデンウイーク）に入ります。一年中で一番楽しい季節かもしれません。

近年は生活水準も高まってレジャーも多様化し、休日を楽しむ傾向は一段と増えつつあります。

以前の日本人は、休むとか休息を楽しむことに抵抗があって「仕事をしているときが一番楽しい」だったようですが、近頃は休日ともなれば山や海は、人でいっぱい、という具合に（西欧からは日本人は働きばちといわれて）よく遊ぶといった感がします。

でも日本人は「勤勉」というのが国民性の一つでもあり、若い世代を除いては大部分の人がまだ仕事好きで、仕事をしていれば安心「仕事が生きがい」と考えているといわれています。

日本も今では世界中で一番の長寿国になり、老後における経済保証（年金）の心配もさることながら、老後をどう生きるべきか、毎日が日曜日という「余暇」の問題が、いろいろと話題に昇っています。

これからの低成長時代では、日本の社会も週休二日制の普及で、確実に余暇時間が増え仕事以外の時間を如何に過すか、みんなで考える必要があるのではないかと思います。

ヒマをもて余すことほどつまらぬものはないと思いますが、仕事以外に自分が打ち込める趣味をもっている人は、人生に退屈をしらず、毎日を楽しく暮せるといいます。ヒマを楽しむ、それはどんなことでもよいと思いますが、一人でできてお金がかからぬもの、が望ましいといわれます。例えば、書や絵をかくとか、短歌・俳句をつくる、盆栽や手芸等を学ぶ等々、人それぞれの好みや家庭事情に随がい、最低二つ位は身につけた方がよいとされています。そして友達を多くもつことだといいます。

この頃における盆栽、短歌・俳句、手芸等を趣味とする講習会や活動が盛況と聞かされます。まことによい傾向であり、そこには生き生きとした明るい顔と、うるわしい姿を思い浮かべることができます。

（佐藤）

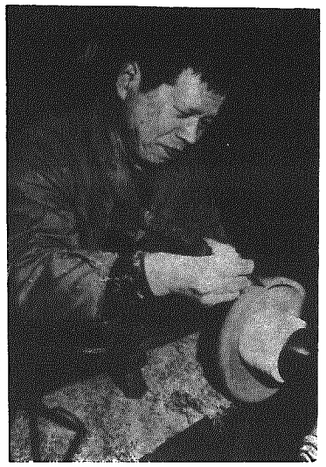
◆…この人を訪ねて…◆

木地師の風間さん

みなさんは「木地師」という職業をご存じですか、この職業は、木製の「器」つまりおわん・おぼん・茶道具菓子器などを作る職人さんのことをいいます。この珍しい商売をしている人が風間辰三郎さん六十四才（大字横越）です。

風間さんは若い頃、福島県へ行き、この職業を身につけたそうです。

風間さんの話では「昔はこの「木地屋」という職業は、山から山へと原木を求めて移動しながら生活をしていたそうですが、プラスチック製品が出回わるようになってからは、その需要も大きく減り、現在ではこの木製のおわんや茶道具等は民芸品として高級品となってしまいました」と語っています。



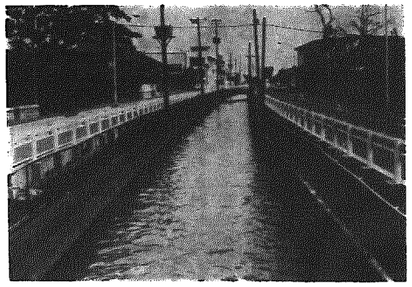
▲作業場でロクロにむかって作業をする風間さん

この木製の「器」の原木は堅いけやきが主ですが黒タンや紫タンなどの輸入高級原木も扱っています。

作業場に入ると、この原木のにおいがプーンとしてきます。風間さんは「自分が満足できるような製品はめったに出来ませんね……」といいながら「ろくろ」に向う。この技術を今では息子に伝え伝統芸術を守っている風間さん……そんなひたむきに生きる姿がとても印象的でした。

◈　◈

水路をきれいにゴミはすてないで



▲　部落を流れる用水路

消費生活の変化等で、ゴミや屋芥の量も年々多くなっています。

ゴミ等の始末は、一定のルールの下で、村や各自で処理することとなっていますが、水路や水路敷にゴミ等の不法投棄があとを断たず、土地改良区や関係者はその対策に大変困っています。

水路にゴミ等をすてると、せき・や砲管等がつまり、通水障害をきたすとともに、汚水悪臭となって、農作業にも影響を及ぼします。

水路は河川と同様、私たちの生活と深くかかわっています。

春耕期の訪れとともに農業用水路は、こん〳〵と水を湛え、集落や市街地をぬって田園地帯へ導かれています。

そして大地をうるおし、美しい緑の大平原を提供してくれます。整然とした美しい流れは生活環境のバロメーターとして、清々しさを感じるものです。ゴミ等は、各自がきまりを守って処分し、水路へはすてないでください。

人権問題
—特設相談所開設—

人権問題でお悩みの方でどんな小さいものでも結構ですから気軽にお出かけください。

◎場所　横越村公民館
◎日時　5月22日 10.00～15.00
※相談は無料、秘密は堅く守られます。

横越歌壇詠草

孫等みな帰りし後を始末しつ
台風一過悔しさもなく　遠藤　左岸

落葉してまっ赤に照ろう柿数
多渡る小鳥の施餓鬼に残る　田村　文彦

五十万百万という大金がクイズにても獲れるわれも取りたき　田村　忠雄

北風を受けて土堤ゆく自動車
の音は聞えずつらなりており　中川美英子

木枯らしにも霜にも耐えて咲
き初めし山茶花の紅初雪に映ゆ　田村　茂理

鉄塔に近づき聞くかな頭上よ
りふり来る文明の音の淋しさ　塩井　三作

おだやかに之日来れり宮の森
鳥が一羽また一羽来ぬ　南場　愛子

一夜さの寒波に五頭の連峰は
朝にまぶしき初雪かざせり　白柏　紗妥

交通事故のご相談はお気軽にどうぞ無料でご相談に応じています

◎午前9時～午後4時半（平日）
◎土曜日は正午まで
◎専門相談員が相談に応じます。

社団法人　日本損害保険協会
新潟自動車保険請求相談センター
新潟市本町通7番町
興亜火災新潟支店ビル5階
TEL　新潟 25—2225